

保団連第 51 回定期大会 発言通告用紙

協会・医会名 岩手	(ふりがな) さかもと こうじ 氏 名 坂本 公児
発言テーマ	带状疱疹ワクチンの接種助成の推進を
<p>発言内容</p> <p>岩手県の带状疱疹ワクチンの助成は 9 市町村で実施されており、50 歳以上の対象者の助成額のお大半は、生ワクチン 4,000 円、不活性化ワクチン 1 万円である。</p> <p>带状疱疹大規模疫学調査「宮崎スタディ」では 1997 年から 2017 年までの、带状疱疹の発症率は約 1.8 倍とされている。直近では、20 代～40 代の増加がみられているが、特に、高齢者の罹患が重症となり深刻である。</p> <p>岩手協会で開催した葛西よこやま内科・呼吸器内科クリニック院長の横山裕先生の講演では、発症率は 50 歳以上が 6 割を占め、新型コロナが発症率を高めているとしている。また、罹患すると、脳卒中の 30 日以内の発症リスクが 1.93 倍であったとしている。さらに、带状疱疹後神経痛に移行した割合は全体の 2 割で、年齢が上がると増えるとのことだった。</p> <p>米国では子供の水痘ワクチンの 95 年からの定期接種により、带状疱疹が減少しているとの報告がある。我が国における水痘ワクチンを 2 回接種した最年長者は 2023 年時点では 11 才であり、現状ではまだまだ带状疱疹ワクチンの接種が必要と思われる。</p> <p>今後、当協会は本県の残り 24 市町村に助成を要望していくが、国の援助が必要であるため、保団連でも取り組みの強化をお願いしたい。</p>	